



与那国町 「姉妹都市花蓮市との国境交流と 多様な観光交流を通じた新しいまちづくり」



平成18年12月1日

沖縄県与那国町

与那国町

「姉妹都市花蓮市との国境交流と多様な観光交流を通じた新しいまちづくり」

与那国町の位置

日本国最西端に位置する
国境の島

面積 28.88km²

東西 12km / 南北 4km

/ 周囲27.49km

位置

東京: 1,900km

那覇: 540km

石垣: 127km

台湾: 111km



与那国町の現況

戦前、与那国島は隣接する台湾と自由往来を行い、一体的な生活圏の中で約5,000名の島民の生活・経済が営まれていた。戦後、台湾との間に国境線が敷かれた後も復興貿易（密貿易）を中心とする交流が行われ、昭和22年には人口12,000名をもって村から町へ昇格するほど活性化した経緯・歴史がある。

その後、密貿易の取り締まり強化等が契機となり、昭和25年以降は年最大500名規模の人口流出が始まり、昭和47年本土復帰時の人口は、2,600名にまで減少し、平成17年4月現在、島の人口は1,718名となっている。

日本の最果て・辺境という与那国島の立地は、医療・物価・流通など様々な面で島ちゃび（離島苦）の要因となってきた。

一方で、昭和57年4月に台湾との交易が再開され（一部物品のみ）、同年10月に花蓮市との姉妹都市を締結し、現在に至っている。

上位計画

「与那国・自立へのビジョン」

(平成17年3月与那国町議会にて、全会一致で議決)

将来像

「自治と自律の島」「交流の島」「自立経済の島」「環境共生の島」「IT活用の島」「安心の島」「癒しの島」「長寿と子宝の島」

基本理念

「自立」「自治」「共生」

基本戦略

基本戦略 : 住民主体の自治・島おこし・まちづくり

基本戦略 : 国境交流を通じた地域活性化と人づくり

基本戦略 : IT / 情報通信基盤の整備など、定住条件の向上と国土保全への政策支援の強化

どうなんちま交流・再生プログラム

地域の目標

<日本最西端の国境の島>という立地・環境を資源とし、姉妹都市花蓮市との国境交流や観光交流を通じた新しいまちづくりを進め、どうなんちま（与那国島）を活性化する

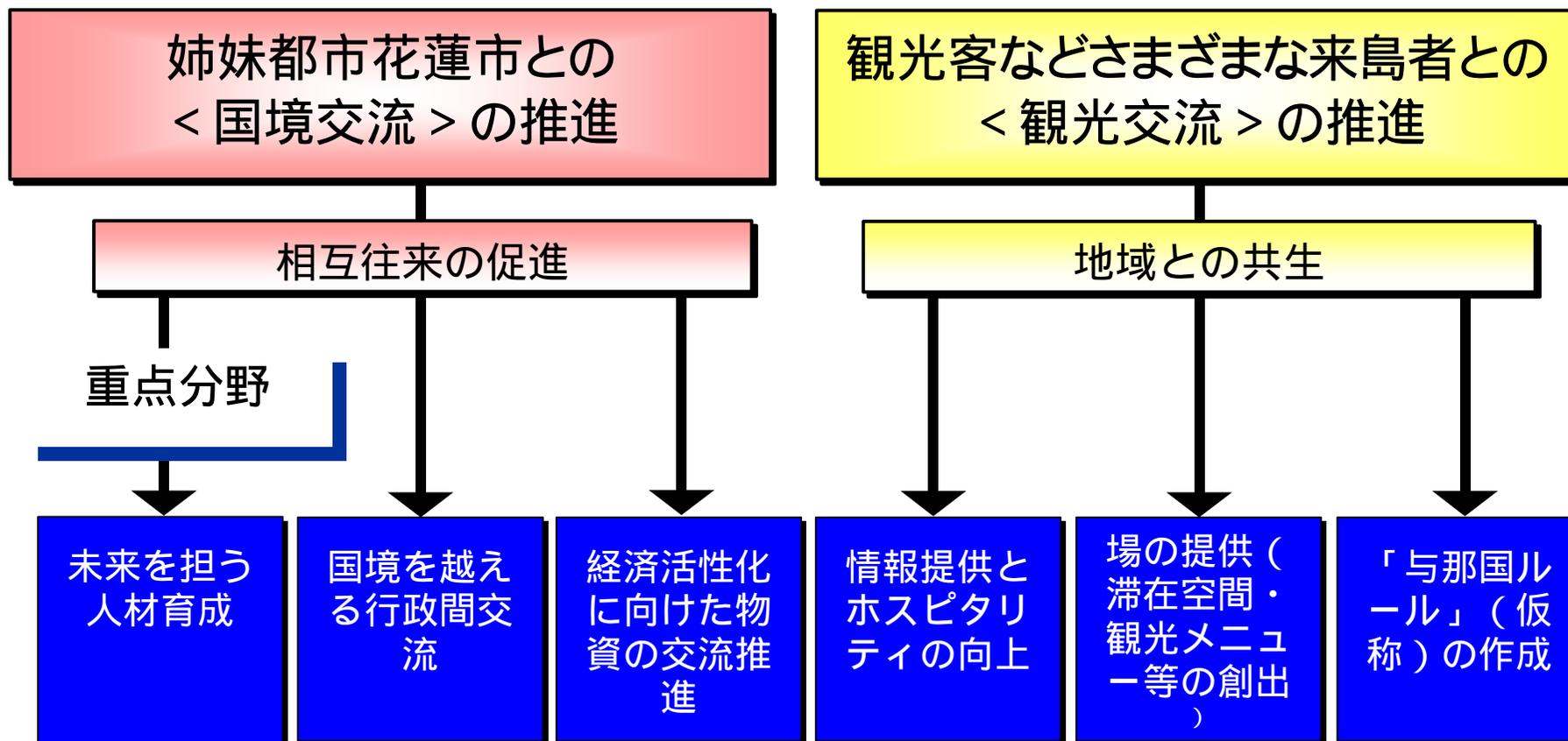
国境交流を通じた地域活性化と人づくり

魅力ある滞在型観光の仕組みづくりとホスピタリティの向上

独自の交流を活かした地域主体の新しいまちづくり

どうなんちま交流・再生プログラム

基本方針



どうなんちま交流・再生プログラム

推進事業

未来を担う 人材育成

初等中等教育における外国語（中国語等）
教育の充実
新たな高等教育機関の設立（琉球大学との
連携）
人材育成基金の設置（与那国版フルブライ
ト事業）
国境地域間のビジネスや文化交流を担うキ
ーパーソンづくり
大人のホームステイの実施（一定期間滞在
/登録制）

国境を越える 行政間交流

国境交流事務所の相互開設
姉妹都市締結25年記念事業（相互親善訪
問等）
花蓮市との「災害等相互支援協定」等の協
議・締結
花連・与那国合同構想の検討（国境地域間
の交流と共生へのビジョン）
NPOの参画による国境イベントの開催等

経済活性化に向けた 物資の交流推進

物資取引トリアル事業 その1（先行的
輸入と推進体制の強化）
物資取引トリアル事業 その2（期間限
定輸出入プロジェクト）
信用できる現地買い付け人の確保
台湾産水産物畜養プロジェクト（与那国ブ
ランド化による日本市場への出荷）
離島地域の畜産振興に寄与する穀物飼料の
調達・中継・移出プロジェクト
船舶の一時停泊・休憩およびクリアランス
機能の確保
余剰航空機・船舶の国境交流への有効活用

どうなんちま交流・再生プログラム

推進事業

情報提供とホスピタリティの向上

特産品開発ノ「与那国ブランドの確立」
観光ガイド「与那国マイスター」の養成
観光客滞在時の安全・安心な環境づくりと
情報提供（医療・防災・安全対策）
NPOなどによる宿泊総合予約案内（ポータルサイトの設置等）
送迎バスの共同利用ノ有効活用
官民協働による与那国情報の発信とPRの
強化（宿泊・滞在情報等）

場の提供（滞在空間・観光メニュー等の創出）

体験型観光の推進（「比川まるごと体験村
構想」等）
旅館業組合の結成に向けた「組合設立準備
会（仮）」の設置
多様な観光客のニーズをふまえた宿泊施設
とサービスの充実
民泊のための受け入れ体制・システムの構
築
滞在型観光のための周遊モデルコースづく
り
既存施設の観光資源としての再評価と適正
管理
産学官共同研究推進事業（与那国馬を使っ
たホースセラピー等）
外国人来島者のための観光・交流メニュー
の強化

「与那国ルール」
（仮称）の作成

地産地消の推進（地元産品の優先調達と消
費拡大）
観光漁業の発展に向けた共存共栄のルール
づくり
海底遺跡の活用と保護のルールづくり
（ユネスコ「水中文化遺産」登録へ）
空き屋敷の活用や民泊に関わるガイドライ
ン/マニュアルの作成
ユナグニサンなどの貴重な動植物と自然生
態系の保護・保全・継承
自然・歴史・文化の聖域を守るための観光
ルール
外資を含む島外資本の受け入れに関わる指
針・諸要件の明確化（環境との共生ノ地域
との共生）

新しいまちづくりビジョン

視点 : 既存施設等の有効活用とネットワーク化による交流のまちづくり
「国境交流」と「観光交流」推進のための島内拠点の活用や関係施設等の整備・機能強化

視点 : 交流拡大に向けた基幹インフラの機能強化
観光をはじめとする島外との多様な交流基盤インフラとなる「港」「道」の整備・機能強化

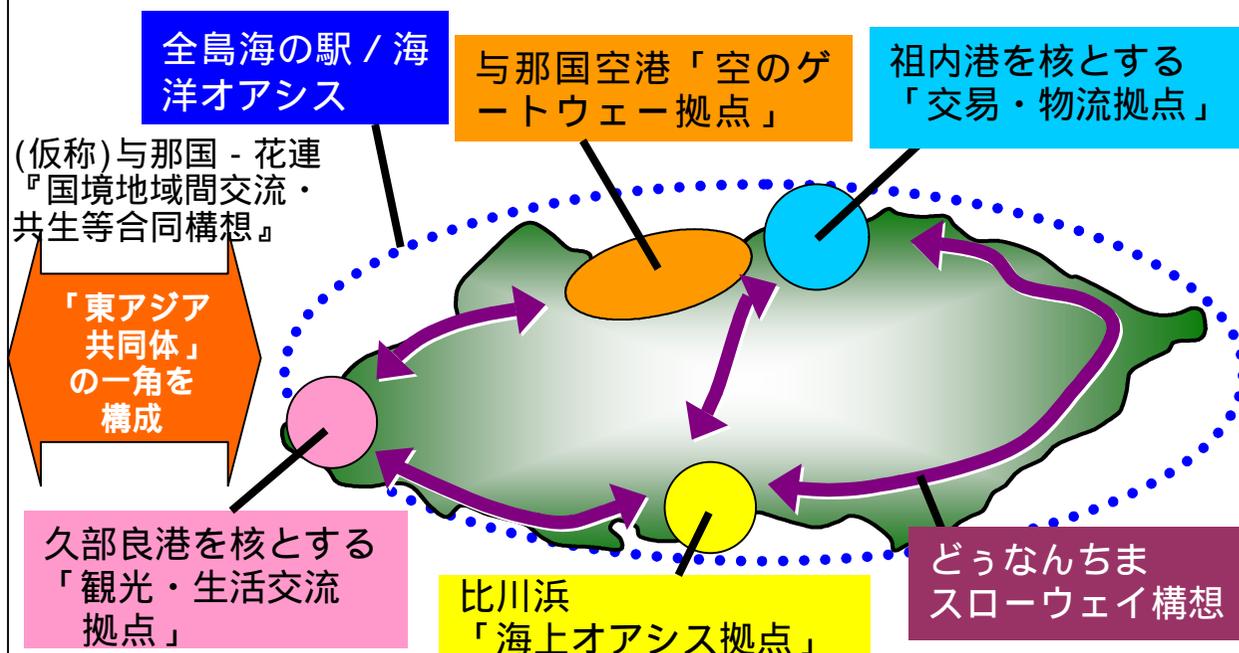
「港」

外洋離島における「港」の複数配置 / 機能分担 (補完と連携) ‘新たな交流空間’としての港湾・空港の活用

「道」

「港」「空港」を結び、‘海の駅・与那国’としての島の一体性を高める単なる移動のためのインフラ / 空間ではなく、「道」そのものが観光振興や景観形成などの支援機能を担う

21世紀・与那国の新しいグランドデザイン



与那国町

「姉妹都市花蓮市との国境交流と多様な観光交流を通じた新しいまちづくり」

調査報告書策定後の動き

第一回 与那国町・花蓮市「国境交流増大戦略会議」

平成18年(2006)10月27日、姉妹都市を締結している花蓮市の蔡啓塔市長一行が与那国町を表敬訪問。両都市のさらなる交流を深めるため、第一回与那国町・花蓮市「国境交流増大戦略会議」を開催し、「国境交流の増大に関する基本合意書」を取り交わした。



写真引用：<http://www.y-mainichi.co.jp/news/6235/>(八重山毎日新聞HP)

与那国町

「姉妹都市花蓮市との国境交流と多様な観光交流を通じた新しいまちづくり」

調査報告書策定後の動き

与那国町どなんブランド創出事業

平成18年度から2ヵ年かけて、町の魚であるカジキの特産品開発と、そのブランド化に向けた取組を行っている。現在、カジキ及び島の地場産材を活用した試作品づくりに取り組んでいる。



与那国町

「姉妹都市花蓮市との国境交流と多様な観光交流を通じた新しいまちづくり」

調査報告書策定後の動き

与那国「国境交流特区2006」

様々な離島苦・孤島苦とともに、恒常的な人口減少が続き、現在の定住者は1,677名。最盛期の7分の1まで減少している。このため、“疲弊する国境の島”から“自立・定住できる日本のフロントライン・アイランド”を目指し、特区提案を行っている。



2005.11.11東京新聞



2006.1.6東京新聞

さいごに

与那国と私たち花蓮は、友達であり、家族であります。

さらに交流を進めていくための問題もあります。一つは言語

二つは交通、花蓮には国際空港と国際港湾があります。

与那国の国際化にむけては、海と港を国際化することが重要です。

政府への要請を行う際は私も町長さんと共に行きます。未来への希望と展望を持ち

大きな目標を設定し、共に頑張りましょう！

平成18年(2006)10月27日、姉妹都市を締結している花蓮市の蔡啓塔市長が与那国町を表敬訪問した際のあいさつより